



平成 17年 3月期

第 3 四半期業績の概況 (連結)

平成 17年 2月 7日

上 場 会 社 名 電気化学工業株式会社 (コード番号: 4061 東証第1部)

(URL <http://www.denka.co.jp>)

代 表 者 役職名 代表取締役社長 氏 名: 晝 間 敏 男
 問 合 せ 先 責 任 者 役 職 名 取締役経理部長 氏 名: 南 井 宏 二 TEL (03) 3507 - 5097

1. 四半期業績の概況の作成に係る事項

売上高等の会計処理の方法の最近連結会計年度 : 有 減価償却費や法人税等の計上など、一部
 における認識の方法との相違の有無 簡便的な方法を採用しております。
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 (連結: 新規1社)

2. 平成17年3月期第3四半期業績の概況 (平成 16年 4月 1日 ~ 平成 16年12月31日)

経営成績 (連結) の進捗状況 (注) 金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四半期 (当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年 3月期第3 四半期	208,391	11.2	19,593	-	16,964	-	10,296	-
16年 3月期第3 四半期	187,361	-	-	-	-	-	-	-
(参考) 16年3月期	251,116		21,451		17,610		10,554	

	1 株 当 たり 四半期 (当期) 純利益		潜在株式調整後 1 株 当 たり 四半期 (当期) 純利益	
	円	銭	円	銭
17年 3月期第3 四半期	21.14		-	
16年 3月期第3 四半期	-		-	
(参考) 16年3月期	21.70		21.69	

(注) 1. 売上高におけるパーセント表示は、対前年第3四半期増減率であります。
 2. 売上高以外の項目につきましては、当第1四半期より開示を行っておりますので、前年第3四半期及び対前年第3四半期増減率は記載しておりません。

セグメント別連結売上高

	17年3月期 第3 四半期	16年3月期 第3 四半期
	百万円	百万円
有機系素材事業	86,011	72,751
無機系素材事業	35,255	35,471
電子材料事業	22,389	19,718
機能・加工製品事業	44,285	39,857
その他事業	20,448	19,563
全社計	208,391	187,361

なお、平成16年6月29日付で、電気・電子、磁気、半導体、光関連製品を中心とする電子材料事業の更なる拡大を目指し「電子材料事業本部」を新設する等、各事業部門の機構改革と研究開発体制の再編を行ったことに伴い、下記の事業区分に変更しております。

事業区分	主要製品
有機系素材事業	ポリスチレン樹脂、ABS樹脂、スチレン/マ-、酢酸、酢ビ、クリレン、耐熱・透明樹脂、クロロレンゴム、アセレンブラック ほか
無機系素材事業	肥料、カーハイド、耐火物、セメント 特殊混和材 ほか
電子材料事業	溶融シリカ、電子回路基板、ファインセラミックス、電子包装材料 ほか
機能・加工製品事業	食品包装材料、ワチン、関節機能改善剤、診断薬 ほか
その他事業	プラントエンジニアリング ほか

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報]

当第3四半期のわが国経済は、輸出や設備投資の増加に加え、個人消費も回復基調が見られるなど景気は堅調に推移しましたが、円高や原油価格の高止まり、また昨年未よりIT関連の一部に在庫調整の動きが見られるなど、景気の先行きに対する不透明感が高まっております。

このような状況のもと、当社グループは業容の拡大と収益の確保に努めました結果、当第3四半期の売上高は208,391百万円、営業利益は19,593百万円、経常利益は16,964百万円、当期純利益は10,296百万円となりました。

有機系素材事業では、スチレンモノマーは定修の影響もあり、販売数量は減少しましたが、原料コストの高騰を受けて販売価格は国内外とも大幅に上昇したことから、増収となりました。子会社デンカシンガポールP.L.のポリスチレン樹脂は堅調に推移いたしました。機能性樹脂は国内外とも、透明ポリマー、特殊樹脂“クリアレン”を中心に販売数量を伸ばした結果、大幅な増収となりました。クロロブレンゴムは、自動車用途関連や接着剤用途を中心に国内外ともに販売数量が増加しました。

無機系素材事業では、鉄鋼メーカーの生産増に伴い耐火物は増収となりましたが、特殊混和材は公共投資等、全般的な工事量の減少により低調に推移しました。

電子材料事業では、IT関連需要が期を通じては総じて順調であったことから電子部材や機能性セラミックスが好調に販売数量を伸ばしました。

機能・加工製品事業では、包装資材はOPS（二軸延伸ポリスチレンシート）が順調に販売数量を伸ばし増収となりました。医薬におきましては、関節機能改善剤“スベニール”は前年同期に第二期増産工事の実施に伴い製造を休止していましたが、当期は通常操業に復したことから大幅な増収となりました。また子会社デンカ生研もインフルエンザワクチンが需要増に伴う増産体制が整ったことから増収となりました。

その他の事業はエンジニアリング子会社の受注や商社の販売が堅調に増加しました。

3. 平成17年3月期の業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

概ね計画通りに推移しており、平成16年11月8日発表の業績予想から修正しておりません。